

「安全衛生技術研修会」を開催

2016年7月15日、日本橋ライフサイエンスビルディング(東京都中央区)において「安全衛生技術研修会」が開催されました。同研修会では、聖隷労働衛生コンサルタント事務所所長の坂元富美夫氏による「働く人のメンタルヘルス」とトヨタ自動車チーフエンジニアの豊島浩二氏による「次世代環境車の未来(環境・安全・災害への備えとしてのプリウス&プリウスPHVの進化)」の講演を行い、製薬協会会員会社の約40名が聴講しました。

■ 安全衛生技術研修会 講演1 | 働く人のメンタルヘルス

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷労働衛生コンサルタント事務所 所長

坂元 富美夫 氏



今回の研修会では、まずは自殺についての知見を述べさせていただきます。不幸にして自殺が既遂されてしまった場合、遺族の間でも職場の中でも大きな波紋が広がり、事業所は事後の対応において相当なエネルギーを要します。メンタルヘルスに取り組むということは、自殺リスクへの対応ともいえます。しかしながら事業所がメンタルヘルス対策に取り組もうとした場合、人事労務管理や衛生管理担当者からどうしたらよいかわからないという相談をよく受けます。「メンタルヘルス不調」といっても、1つの疾病を全体像で考えるより、予防管理、兆候管理、発症管理、復職管理の各ステージに焦点を当て、どういった対策や取り組みをすればよいか、もしくはしなければならないかなど事業所の状況や課題を鑑み対策や計画を立てると、意外と効果的な進め方として機能する 경우가少なくありません。本講演では、技術的に以下の4つの管理に焦点を当てます。

メンタルヘルス対策の進め方

ステップ1(予防管理)

セルフケアを実施し、メンタル不調にならないように自らの気づきと予防を促すこと。また、働きやすい職場環境を形成すること。ストレスの聞き役が存在が大切なこと。

ステップ2(兆候管理)

ラインケアを実施し、早期対応を促すこと。また、過重労働者への医師面接指導、ストレスチェックからの医師面接指導などを実施すること。専門医へのつなぎ役が大切なこと。

ステップ3(発症管理)

休職の際、および休職中の対応について。また、安心して休める環境や、休職中の情報提供を行うことが大切なこと。

ステップ4(復職管理)

復職のプロセス(判断)と再発防止対策が大切になること。ここでは、本人の意志の確認と、管理者から見て働ける状態かどうかの判断と、実際の復職プランが重要になること。

ストレスチェックが始まりました。結果を活かし、職場環境の改善に取り組むことが重要です。技術的な視点から、ストレ

モデルを引き合いにその対策等について4つのステップの中から述べさせていただきました。技術は知識です。ひとつの疾病と考えれば、インフルエンザの対応も、うつ病の対応も、技術的には同じことです。インフルエンザの予防はしているのに、うつ病の予防をしていなければ、うつ病になってしまうのは当然のことです。本講演が、働きやすい職場環境形成の一助になれば幸いです。



講演風景

■ 安全衛生技術研修会 講演2 | 次世代環境車の未来 (環境・安全・災害への備えとしてのプリウス&プリウスPHVの進化)

トヨタ自動車株式会社 チーフエンジニア 豊島 浩二 氏

プリウスの進化と共に歩んできた環境と安全、災害への備え、車が社会に果たすべき役割について話をします。

新興国でも車の恩恵を享受しようとすると石油が足りなくなります。そこで、石油・ガスから、電気・水素を使う次世代環境車が必要になります。実際に手に入る小型車として、プリウスを誕生させましたが、プリウスはそのDNAを変えることなく、変態(卵から孵った幼虫が蛹になり蝶になること)することでPHV(プラグインハイブリッド)車として代替わりしています。

トヨタの“クルマづくり”は、安全・安心・快適な車を提供することを大切にしています。そのために、(1)良い部品を作る。(2)それを多くの車で使う。(3)良い部品で車がどんどん良くなっていく。(4)良い部品がいっぱい集まってくると、もの作りが改革され、効率よく作れるようになる。(5)その結果、良いものが安く作れるようになる。こうしたトヨタ・ニュー・グローバル・アーキテクチャ(TNGA)というサイクルを回す中で、担当する人の育成もできます。プリウスは、まさにゼロから作り上げた車になっています。

車の運動性能を上げることは、限界性能が上がるので、運転しやすくなり、事故を減らすことができます。安全に走らせるだけではなく、安心して走らせることになります。車高を低くしたことは、車の安定性が増すだけでなく、座面を低くすることができます。それにより、ドライバーが楽な姿勢を取れるようになりました。また、視界が地面に近くなることで見やすくなり、より楽な運転ができるようになりました。安全と安心は違うので、データだけで作るのではなく、すべて人が感じて安心して運転できることを目標に作っています。

環境性能は、ドライバーの技量だけでなく、心がけによっても上げることもできます。環境性能を上げることは、安全につながります。エコドライブは余裕をもった運転でもあり、事故を減らす効果があり、安全につながっています。

事故の際には、バンパーが衝撃を吸収することで、自車の被害を少なくするだけでなく、相手の車の被害も少なくなるように考えた対応になっています。



トヨタセーフティセンスという衝突回避支援パッケージでは、ブレーキサポートシステム、ドライバーへの警告、オートクルーズ、オートマチックハイビームなど、ドライバーを支援して事故を回避し、安全な運転ができる仕組みが盛り込まれています。各社が開発を進めているため、安全パッケージの性能はどんどん上がっています。

ハイブリッド車は電気を作っているので、災害時の電気供給源としての役割も果たせました。実際にプリウスからの電源を利用した防災キャンプを開催しています。警察や病院では防災用に活用もされています。

そして、プリウスはプラグインハイブリッド(PHV)に進化しました。太陽光パネルも付き、基本的にEVとして動くようになっているので、ガソリンはほとんど使わなくても動くようになっています。

これまで開発にかかわってきたプリウスは、一番安全な車と考えています。そして、PHVに進化させたことで、さらに安全な車になったと考えています。

今日は、環境の話から安全の話までいろいろしてきました。今まであった機能を集約すれば、自動運転は可能であるが、車はドライバーをサポートするものであり、事故を減らすことには役立っているが、最終的にはドライバーが重要な役割を担っています。社会につながるシステムとして、車と車、車と交差点、人と交差点が情報交換しながら危険情報、回避情報を伝達することで、事故を削減する実証実験もしています。

車が積極的にアクションすると、ドライバーが過信してしまうので、人間と車の対話を大切にしながら“クルマづくり”をしています。そんなことを感じながら、プリウスを見ていただければ幸いです。



講演風景

最後に

環境安全委員会では、毎年7月に「安全衛生技術研修会」を開催しています。これからも、皆様の活動のお役に立つ情報提供の場として、交通安全を含む労働安全や労働衛生に関する研修会を開催します。ご希望やご要望がありましたら、環境安全委員会までお寄せください。

(環境安全委員会 遠藤 真一)